

## 私の学生時代の 「パンキョー」のカリキュラム

工学研究科 ファイバーアモニティ工学専攻  
鈴木 崇夫

私は恥ずかしながら現在、共通教育科目をその一部さえ担当していないわけであるが、今回共通教育フォーラムに投稿する機会が与えられたということは、現在のカリキュラムに関して何事か意見を求められているのだと勝手に解釈した次第である。きっとそのような趣旨ははずだ!?

そう思って「履修の手引き」を見てみると、大学入門セミナーや情報処理基礎科目を除いては、意外と我々（私は他大学で平成2年学部入学であるが）の頃のカリキュラムと差がないのに驚いた。変化がないということは、それ自体にそれなりに合理性があるという場合もあることは確かだが、一方で学部1、2年生の専門科目に係わる教育はめまぐるしく改訂され、息つく暇もなく各学科のエキスパートを養成するカリキュラムとなったように見受けられる。

私の頃は1、2年生の専門科目なんぞは「なんちゃって」教育しかしておらず、共通教育科目、いわゆる「パンキョー」、も多くの学生が必要な科目だけ（この「必要」の意味は個人によって大きく違ったわけだが）出席していた時代である。悔るなかれ、実は昔の教養部による理数系の教育は類まれなる理想的な教育環境を与えていたと個人的には思っているわけであるが、いずれにせよその当時の1、2年生はカリキュラム的にもっと時間に余裕があったことはほぼ間違いない。それに比べて現在の1、2年生の時間割表はパンク寸前で、例えばステップアップ等の講義時間を考慮して1年生の補講時間を探そうとすると、金曜以外は共通の空き時間がまず見つからない。

新入生の基礎学力が下がってきている現在の状況下で、これだけの盛りだくさんの内容を1、2年生の間にマスターして頂くというのは、私には無理なプランだと思う。どこからか要請があって（その要請がどこからどのようなのかをきちんと説明していただいた記憶がないのだが）いろいろな科目を増設していった結果（一方で専

門の選択講義科目は削減となったと聞か）、学生には消化不良をおこすカリキュラムとなってしまった印象は否めない。そこで、今まであまり手を付けてこなかった共通教育科目のカリキュラムを改正して4年間全体で学生が無理なく効率よく学べるプランを考える必要があると思われる。

私はシンプルで合理的・機能的なカリキュラムが好きだ。第二外国語のドイツ語なんぞは、私自身大学時代の3年間（1度単位を落としたため）結構時間を費やしたものの、今となっては11 (elf) くらいまでしか数えられない。忘れたものは不必要なものだと言うのは危険な発想だが、福井大学の学生の平均的な英語力から考えて、現在も第二外国語を必修としている理由が私にはまったく分からない。一方で「語学」はきっと継続して学ぶことが必要なのだろうと思う。そこで第二外国語の4単位を4年生の英語に充てるのも良いと思う。また「教養」に関しても同様に継続性が重要であると思われる。そこで教養教育科目を4年生時に取ることを奨励するようなカリキュラムはいかがだろうか？「ベンチャービジネス概論」のような講義も教養教育科目として認定するとより受講しやすくなると思う。そういえば今日も私の研究室の学生が午後の1時を過ぎて、「おはようございます」と言いながら重役出勤してきた（重役を超えている!?）。4年生向けの教養教育科目を午前中に設定するのは結構いい案かもしれない。

共通教育科目のカリキュラムが私の頃と比べてあまり変わっていないと申し上げた。「第二外国語を廃止して、英語の教育に専念すべきだ」とか「教養教育科目は社会人になる直前に履修の方が効果が上がるのでは」といった議論があったことも、実は私の頃と比べてあまり変わっていない。先にも述べたとおり、私はシンプルで合理的・機能的なシステムが好きだ。このフォーラムで活字となって建物片隅に置かれるより、議論の場が開かれることが理にかなっていると思われる。